

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『当院精神科 COVID-19 病棟における HFNC 酸素療法による MDRPU 対策の有効性に関する調査』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2021年2月10日より2022年6月24日までの間に、当院 COVID-19専用病棟で HFNC 酸素療法を受けた方

【研究期間】

2022年12月14日より2025年10月31日まで

【研究責任者】 看護部 5階北病棟看護師 荒木優治

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

本研究は当院 COVID-19 専用病棟で行った HFNC 酸素療法の両耳介における皮膚トラブル予防のために実施した対策の効果を明らかにするために、電子カルテを用いて後ろ向きに情報を収集する。調査対象は2021年2月10日(第3波)から2022年6月24日(第6波)までの HFNC 酸素療法実施全患者であり、両耳介の皮膚トラブルの発生をプライマリーエンドポイントとし、対象患者の記述統計量を求め観察項目を Mann-Whitney の U 検定を用いて有意差を求める。それによって当院で実施した HFNC 酸素療法における耳介の皮膚トラブルに対する MDRPU (Medical Device Related Pressure Ulcer) 対策が有効だったのか、あるいはその他に褥瘡発生に関する観察項目があるのかを検証することで今後の精神科における HFNC 酸素療法の看護の質向上に寄与できると考える。

【利用又は提供する試料・情報等】

情報:カルテの診療録から、年齢(年代)、性別、精神科基礎疾患、ネーザルハイフロー装着期間、入院期間、ネーザルハイフロー装着からネーザルハイフローによる皮膚トラブル発生までの期間、実際の皮膚トラブルのシェーマ、身長、体重、BMI、栄養に関する入院時 L/D(TP,Alb)、入院中胃管留置有無、身体的拘束内容、看護度、転帰を入手

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属 看護部 5階北病棟看護師 氏名 荒木優治

電話番号 042-341-2712

e-mail:ark.yj※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail:ml_rinrijimu※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)